



## 地域調査を取り入れた

## 観光とオーバーツーリズムの授業 —鎌倉を事例に—

神奈川県立小田原高等学校 能勢 博之 (のせ・ひろゆき)

### —使用教材—

- 『高等学校 新地理総合』
- 『新詳地理探究』
- 『新詳地理資料 COMPLETE 2024』



### 1 はじめに

筆者の勤務校では、2年次に「地理総合」、3年次に選択科目として「地理探究」を置いている。このため、今年度苦慮しているのが、同じテーマを「地理総合」で扱っている場合、「地理探究」ではどのように深化させ探究活動を取り入れるかということである。

「観光」単元も、「地理総合」では「例えば、個々の観光地や観光動向よりも観光を軸とした国際的な人々の移動を通じた地域や国家間のつながりといった面から捉えたりすることが考えられる」（学習指導要領解説・地理歴史編）とあり、「地理探究」では「場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現すること」（学習指導要領）とある。

このことから、「地理総合」では教科書『高等学校 新地理総合』p.40～41「5 観光のグローバル化」の地図や図表を基に、世界の観光の特徴を把握して背景を考えさせた。それを踏まえて「地理探究」では、教科書『新詳地理探究』の中でも p.156～157にある「2 日本の観光とその変化」に重点を置き、地域調査も取り入れながら探究活動を意識して授業を展開する予定である。本稿は、その部分の授業案（2時間を想定）である。

### 2 観光を扱うにあたって

『新詳地理資料 COMPLETE 2024』（以下、資料集）でも、「余暇と観光」（p.190～191）というテーマが設けられているように、「観光」を扱う際には各国の労働時間の変化や休日・休暇の様子を冒頭に持ってくるのが定番であろう。

資料集p.190「1 労働時間の短縮と余暇の増加」（図1）を見ると、日本の労働時間が長いこと、有給休暇の取得率が低いことなど、各国の国民性が表れている。ただし、労働時間の調査をうのみにせず、日本ではサービス残業という言葉があることも考えさせるようにしている。

さらに、各国の週休日以外の休日の数を調べてみると、日本は特に多いことが分かる。こうしたことから、有給休暇が取りにくい傾向があり、祝祭日を増やして「一斉に」休む日本の姿が浮かび上がってくる。いわゆるハッピーマンデーはその最たるものであると思われる。これによる日本の観光業への影響を考えさせることも大切であろう。

### 3 授業案と展開例

本授業案では、鎌倉の観光における課題、特にオーバーツーリズムに着目して、その実情調査と課題解決のための考察を行うこととする。

#### （1）事前調査 鎌倉の姿や観光の特徴を調べよう

##### ①地形の確認

神奈川県は三方を丘陵に、一方を海に囲まれた、防御に優れた地形だということを、地理院地図などのWebGISを使って表現させて確認し、導入とする（図2）。

ただ、この地形を現代の交通という視点で見ると、鎌倉への出入りが難しく、特定

#### 1 労働時間の短縮と余暇の増加

Link▶ p.259 地中海に面したリゾート

日本では、労働生産性（労働の質）の向上や休日数の増加などにより、労働時間の短縮が進み、1990年代後半には、アメリカ合衆国など同程度の水準にまで短縮された。また、こうした変化と連動するように、日常生活における余暇活動への関心も高まってきた。しかし、日本の有給休暇の取得率をみると、ドイツやフランスなどの国々が1か月近くの有給休暇を取得できているのに対し、日本は平均支給日数の6割にあたる12日しか取得できていない。この差の背景には、要し長期休暇をとって余暇の時間を過ごす「パカンス」の習慣が根づいているフランスなどに比べて、日本では長期休暇をとる習慣があまり根づいていないということがある。日本では、正月や盆など、特定の休日に余暇活動が集中し、このことが交通機関や宿泊施設が混雑する一因となっている。

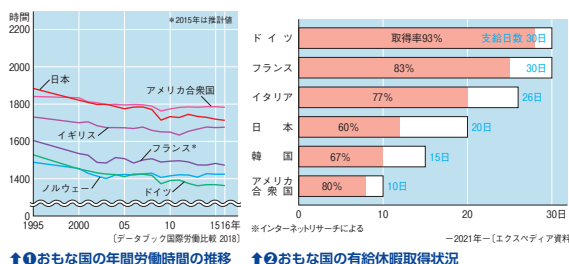


図1 1 労働時間の短縮と余暇の増加『新詳地理資料 COMPLETE 2024』p.190



図2 左:鎌倉市の地形図(地理院地図「自分で作る色別標高図」で作成、一部加筆)、中:鎌倉市中心部の地図 海沿いを走る赤色の道が国道134号、海岸から垂直に伸びる道が鶴岡八幡宮へ向かう参道(「地理院地図」より)、右:参道の中央部にあり、一段高くなっている部分が「段葛」(筆者撮影)

の所に車が集中しやすいともいえる。そのうち特に海沿いを走る国道134号は、鎌倉市内の交通と相模湾沿いを結ぶ交通が重なるため、以前から交通渋滞がひどく土日はそれに拍車がかかることで有名であった。

## ②箱根との比較

生徒に、神奈川県内有数の観光地である鎌倉と箱根の観光を比較させ、両者の観光の特徴を挙げさせる。どちらも本校の生徒たちは何回も行っている場所であり、アウトプットの練習にちょうどよい。

### 予想される生徒からの回答例

#### 〈鎌倉〉

- ・友人と日帰りで行くことが多い。
- ・土産は、お菓子を家族や友人に少し買う程度。
- ・歴史的な見どころが多い。

#### 〈箱根〉

- ・日帰りのこともあるし、宿泊することもある。
- ・温泉に入ることが目的の時も多い。
- ・友人と行くこともあるし、温泉や宿泊だと家族で行くこともある。
- ・歴史的な見どころ(関所跡など)もあるが、大涌谷の噴煙や芦ノ湖など火山に関係する景色を見ることが主な目的である。
- ・温泉饅頭を買ってみんなに配ったり、かまぼこ類などを買ったりして家で食べたりする。

## ③データによる検証

②で挙げた特徴をデータで検証させる。次の資料を見ると、鎌倉市はほとんどが日帰り客であるのに対し、箱根町は日帰り客が多いものの、宿泊客も多いことが分かる。観光客消費額もそれを反映したものであるが、総消費額を観光客の総数で割った1人あたりの支出額を求めると、鎌倉市が約6,360円、箱根町が約4,610円となる。鎌倉市の観光客は日帰りにもかかわらず高額の支出をしていることを読み取ることができる。また、宿泊施設の部屋数を比べると、箱根町が多いのに対し、鎌倉市は観光地としては意外なほど少ないことが分かる。

## ■日帰りと宿泊の観光客数とそれぞれの割合(令和5年推計)

	日帰り客	宿泊客
鎌倉市	1186万3千人 (96.6%)	42万1千人 (3.4%)
箱根町	1557万2千人 (79.8%)	393万8千人 (20.2%)

出典：神奈川県ウェブサイト「令和5年入込観光客調査」<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/b6m/cnt/f80022/r5irikomi.html>

## ■観光客消費額の内訳とそれぞれの割合(令和5年推計)

	宿泊費	飲食費及其他消費額
鎌倉市	129億4843万2千円 (16.6%)	651億3399万6千円 (83.4%)
箱根町	665億5131万9千円 (74.0%)	233億9003万3千円 (26.0%)

出典：神奈川県ウェブサイト「令和5年入込観光客調査」<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/b6m/cnt/f80022/r5irikomi.html>

また、神奈川県内の宿泊施設の部屋数を見ると、鎌倉市の部屋数が大変少ないことが分かる。

## ■神奈川県内における宿泊施設の部屋数ランキング

1位	横浜市	22,633部屋
2位	箱根町	7,906部屋
}		
11位	鎌倉市	980部屋

出典：「HotelBank」ウェブサイト、メトロエンジンリサーチ調べ(2019年7月現在)。

## ④オーバーツーリズムの調査

(1)事前調査の内容を踏まえ、鎌倉では「観光」においてどのような問題が生じているのか、それに対してどのような対策を行っているのか、鎌倉市のウェブサイト「鎌倉観光に関するQ&A(オーバーツーリズムについて)」を参考に調べさせる。ここから分かることとして、次のようなものが挙げられる。

### ■鎌倉駅東口周辺～旧鎌倉エリア(特に小町通り※1)

【問題】道路横断時の混雑やごみのポイ捨てなど。

【対策】誘導員の配置、ごみのポイ捨て禁止キャンペーンなど。

※1 鶴岡八幡宮まで若宮大路と平行に走る通りで、土産物店や飲食店などが並ぶ。

## ■江ノ島電鉄（以下、江ノ電） 鎌倉高校前駅踏切周辺

**【問題】** 車道中央での写真撮影、路上駐停車、敷地内無断侵入、ごみのポイ捨てなど。

**【対策】** 誘導員の配置、看板や掲示物でポイ捨て禁止などのマナーを周知する。

## ■その他

**【問題】** 混雑・渋滞により、観光客は早い出発を強いられている。混雑地域の周辺ではごみのポイ捨てのほか、話し声による騒音の問題にも直面している。

このほかにもいろいろな問題が生じており、鎌倉駅周辺のコンビニエンスストアなどではトイレの使い方が悪く、よく詰まってしまって従業員がその対応に追われているなどの新聞報道もある。

### (2)現地調査

筆者は2024年6月に鎌倉での現地調査を行った。本来であれば生徒とともに実際に現地調査ができれば一番よいが、現実的には難しい。そこで「Google ストリートビュー」（以下、ストリートビュー）を利用したヴァーチャルな現地調査も活用したい。以下、筆者が撮影した写真も交え、実地調査のポイントを紹介する。

#### ①中心部の観察

生徒には注目させるポイントを絞って調べさせるとよい。今回注目させたいのは以下の3点である。

- ・だんがすら 繁華街の小町通りや鶴岡八幡宮の参道である段葛の周辺を中心に、良好な景観づくりのために何が行われているか、その工夫を調べよう。
- ・小町通りの2009年の写真と同じ場所で今の景色との違いを探し、どのような取り組みがあったかを考えよう。

筆者撮影の **写真1** から分かるように、電線の地下埋設が行われている。参道である段葛の沿線が先に行われ、後に小町通りでも行われた。ストリートビューでは、



**写真1** 小町通りの電線地下埋設の様子  
(左:2009年、右:2024年ともに筆者撮影)

過去の画像も見ることができるため、最も古い2010年撮影のものを見れば、小町通りの一部にはまだ空中に電線がある様子が確認できる。実際に現地調査ができる場合でも、過去の映像はストリートビューで見て現在の状況と比較させるという方法もある。

#### ・コンビニエンスストアや自動販売機における景観保護の工夫はどのようになされているか。

この地域のコンビニエンスストアはどれも外観の色が地味である。一般的な店舗よりも地味なデザインにすることで景観に配慮しているコンビニエンスストア（**写真2**）の存在は、知っている生徒も多い。さらに鎌倉市中心部では、清涼飲料水の自動販売機はどの飲料メーカーもクリーム色に塗られている（**写真3**）。ただし、小町通りには自動販売機はほとんどなく、角を曲がった路地にあることが多い。段葛沿いには少数であるが自動販売機が見られる。

#### ②パークアンドライドの実情を調査・観察する

前述のように、鎌倉市中心部は地形的な制約もあって渋滞が激しい。周辺にある既存の駐車場に駐車して江ノ電等の公共交通機関に乗り換えて中心部へ向かう方法を取り入れている。利用者には、江ノ電とバスが利用できるフリー切符の購入や、協賛店や寺社等での特典が用意されている。

パークアンドライドは、授業で取り上げても生徒がピンとこない部分なので、駐車場の看板（**写真4**）や掲示物を見たらうで、その意図やしぐみを確認させたい。

このしぐみはある程度機能しているが、江ノ電の輸送



**写真2** 景観に配慮したコンビニエンスストア  
右の看板は緑色の濃さに注目(2024年、筆者撮影)



**写真3** クリーム色に塗られた自動販売機(2009年、筆者撮影)



写真4 パークアンドライドの駐車場看板(筆者撮影)



写真5 江ノ電の鎌倉高校前駅の横の踏切で、聖地を撮影しようとする観光客(2024年、筆者撮影)



能力は限界に近づいている。江ノ電は、全線が単線、小型車両、4両編成が限界というネックを抱えており、これ以上の輸送力アップは困難とされている。最近では平日でも大変混んでいて、土日ともなると乗り切れないこともある。なお、このような問題に対して2024年5月の大型連休中に二つの実証実験が行われた。一つは、住民が鎌倉市の証明書を提示すると優先的に江ノ電の駅に入場できるというもの。ただし駅構外に乗車待ちの列が出来ないと実施されない。もう一つは関東運輸局が行った、混雑が最も激しい「鎌倉～長谷」駅間は「江ノ電を使わず歩こう」とした呼びかけである。

### ③いわゆる「聖地」の混雑を見る

人気漫画「SLAM DUNK」で登場する江ノ電の鎌倉高校前駅の横の踏切は、「聖地巡礼」\*2の観光客でにぎわっており、その様子はストリートビューでも確認できる。

筆者は6月中旬の平日朝に訪れたが、写真5のような状況で、誘導員が常に交通整理と撮影場所について指示を出していた。付近の掲示物には、「敷地内への侵入禁止」、「ごみ放置の厳禁」などが書かれていて、近隣住民の生活にも支障が出ていることを実感した。

### (3)調査を基にさらなるオーバーツーリズムの対策を考える

鎌倉の場合には、すでにいろいろな方法が試されていて、さらなる対策を考えることはなかなか難しい。しかし、「誰を優先して」「どのような対策を立てるか」という観点でグループで一つずつは提案させたい。このような提案をする際には、“絵に描いたもち”になりがちで、本来であれば費用対効果や現実的かどうかを検証すべきである。残念ながら実際はそこまでの検証は難しいので、生徒には「提案している対策の問題点・課題」も併せて発表させることで、少しでも現実的な案を目指させたい。

インド出身の茨城県立土浦第一高等学校附属中学校長 プラニク＝ヨゲンドラ(通称よぎ)氏も、「例えば探求学習ですが、現状では、提示された問題に対して単純に『こうすればいい』という回答を作って終わりです。その対応策や解決策は現実の社会で本当に実行可能なのか、難しければどうすればできるようになるのか、ビジネスチャンスはあるのかなどの検討に発展しません。現

実の行政システム、会社の経営システムがどうなっているか、実行に必要な制度やITシステムは本当に作れるのかなど、実践的な知識が欠けているのです。そのような点を少しでも多く学ぶ必要性を痛感しています」と述べている\*3。

## 4 観点別評価

### 1)「知識・技能」

この単元での知識の評価は難しいので、教科書の内容などを定期テストで出題したものを基に評価する。技能については、GISを利用した成果物のほか、事前調査や現地調査をどのような手段で行い、どのような結果を得たかをワークシートに記入させ、評価材料とする。

### 2)「思考・判断・表現」

今回は事前に予測した鎌倉や箱根の観光の特徴をどのくらい挙げることができたか、また、さらなる対策をグループで協働して練り上げたか、問題点・課題という負の側面も考えて現実的なものに近づけたかどうかを、評価材料とする。

### 3)「主体的に学習に取り組む態度」

ワークシートに、今回の調査を通じて得たことや考えたことを記入させるほか、取り組み状況を振り返って3段階で自己評価させ、評価材料とする。

## 5 おわりに

観光の単元は、一般論的な内容になりがちであるが、現地調査を取り入れることで観光客の行動や住民の暮らしという等身大の人間の姿が浮かび上がってくる。ストリートビューなどヴァーチャルならヴェネツィアなどの海外でも実施可能なので、多くの方の授業実践につながらばと思う。

### (参考文献)

- ・文部科学省(2018)『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 地理歴史編』
- ・朝日新聞 2024年5月4日湘南版「鎌倉駅～長谷駅なるべく歩こう GW江ノ電の混雑緩和へ実証事業」
- ・朝日新聞 2024年7月18日 「コンビニはトイレを貸すべき?観光地・鎌倉でマナー違反続き利用制限」
- ・朝日新聞 2024年7月19日 耕論「オーバーツーリズム考」

\*2 「聖地巡礼」については、『新詳地理探究』p.157のコラム「深める」に解説がある。

\*3 PRESIDENT Online 2024年6月18日配信「テストは暗記力を問うだけ、成績は紙で管理…インド出身の公募校長が日本の教育現場で感じた「古臭さ」」<https://president.jp/articles/-/78021>